

カナサシ重工

「操業再開なら雇用」

取り消し 問題 内定者に意向

静岡 09.4.3

メイン銀行から必要な資金の融資が受けられなかったと理由に一日から工場の操業を一時停止し、入社直前に新卒者十九人の内定を取り消した静岡市清水区の造船メーカー・カナサシ重工（片上久志社長）は二日、内定者への説明に追われ、操業を再開した場合は雇用する考えを伝えた。同日、同社労働組合から支援要請を受けた静岡市や清水商工会議所は、地域経済に与える影響が深刻と受け止め、対応に乗り出す検討を始めた。

同社によると、内定者ら二〇と説明する。ものとは一日から社員が順次出回っている。事情を説明して内定通知取り消し書を出し、手渡した上、「再び操業が始まったら雇用した」との考えを伝えていく。雇用する意思があまりないが内定を取り消した二〇について「そのままにしておけば、今後の活動が約束してしまふ。もし操業再開がでない場合は「雇迷感」を植えつけてしまふ」との懸念を述べた。

同社労働組合の代表者三人は清水商議所と市経済局を訪れ、「メイン銀行」に対して融資を再開するようお願いしている。対応した清水商議所の五十嵐（専務）は「地元企業を守るのにはわれわれの務め。市と協力して意に沿うようバックアップしたい」と答えた。市経済局も同や県、市などの融資制度について説明した。

同社労働局長は「再開できるまで社員や労働組合の交代で出社し、資機材や工具の保管に当たってほしい」と話した。執行委員長は「内定者の名前を記入したヘルメットや安全靴は用意してある」と話した。

同社労働局長は「再開できるまで社員や労働組合の交代で出社し、資機材や工具の保管に当たってほしい」と話した。

同社労働局長は「再開できるまで社員や労働組合の交代で出社し、資機材や工具の保管に当たってほしい」と話した。

労働局、経緯を確認

カナサシ重工の内定取り消し問題で、静岡労働局は同社が内定を取り消した経緯や事業再開の確実性を調べている。同労働局に対して同社は、三十一日に操業停止と内定取り消しが決まっ

た後、ハローワーク清水に事情を話し、内定者に関するか「などを確認し、職安法で定める」（社名）公表の要件に該当するかどうか、慎重に調査する方針。

同労働局は今後、同社が「内定者に十分な説明をしたか」「補償や慰労を準備しているか」を確認する方針。

士（静岡市）は、判例上、企業と内定者の間で内定通知書と誓約書が取り交わされていけば、雇用契約は成立し、前日の内定取り消しは解雇権乱用に該当する一との見解を示す。内定者の希望により、雇用開始時期を四月半ばまでの支払いを返す場合に支払いは返されようとした疑いもある。同労働局長は「内定者にも十分な説明をしているか」と指摘した。